



認証書を内堀知事から受けるジムデ博士とピサロ代表君＝24日午前、猪苗代町・ホテルリステル猪苗代

県、国際交流親善大使に任命

猪苗代町のホテルリステル猪苗代では内堀雅雄知事主催の歓迎昼食会が開かれ、県産食材を使った料理や桃ジュース、地酒などで受賞者らをもてなした。

内堀知事は「野口博士を生んだ本県の魅力にたくさん触れて、世界中の方々に伝えてほしい」と歓迎し、アブドゥライ・ジムデ博士らを本県と各国の相互理解

や親善を図る国際交流特別親善大使に任命した。

乾杯に先立ち、ジムデ博士は「野口博士の遺志を継いで、よりよい世界を次世代に残したい」、DNDiのルイス・ピサロ代表は「野口博士は国際的な連携の大切さを世界中に広めてくれた。私たちも福島のアブドゥライ・ジムデ博士とそれぞれ思いを語った。

▲ 8月25日 福島民友新聞掲載

ジムデ博士らとの意見交換会に臨む高校生
＝24日午後、会津若松市・会津若松市立



高校生にエール

意見交換会には会津の高校生ら14人が参加。会津学鳳高3年の五十嵐花さん(17)は「諦めないで挑戦する大切さを学んだ。目標に向かって頑張りたい」と話した。

にし、医師を志した。「医師になれなかったが薬剤師として薬学を学び、マラリアの治療薬の研究を進めている。野口博士のように強い志を持って前に進むことができた」と熱意を語った。

非営利組織「顧みられない病気の新興開発イニシアチブ(DNDi)」のルイス・ピサロ代表は治療薬の開発について「通常は10年以上かかる。例外で100年かかっても治療法が確立しない病気もある」と説明した。「コロナワクチンのように短期間でできることもある。開発に関わる人の数や政府の意思などが影響する」と解説した。高校生に向けて「一人だけでは成功できない。手を携えることで成功できる」とチームワークの大切さを伝えた。

「夢と志を持って前に進める」「研究の未来は皆へに託されている」。24日に来県した野口英世アフリカ賞の受賞者ら。会津若松市内で行われた高校生との意見交換会では、第一線の研究者として世界の医療の知見とを、未来に挑む若者たちへ希望の言葉を贈った。

野口アフリカ賞受賞者来県

調べてわかったこと、考えたこと

記事から知り得たこと

.....

.....

.....

.....

.....

疑問に思ったこと、調べてみたいこと

.....

.....

.....

.....

.....

皆さんはどんな夢や志を持って前に進んでいきたいと考えていますか？

